“長井市”の歴史がわかる“ふるさと講座”

長井荘の文化と大江長井氏

日時 2015年5月30日（土） 13：15開始

会場 文教の杜ながい 小桜館（旧西置賜郡役所）
（山形県長井市高野町2-7-28）

入場無料
先着順40名

13：25 「戦国大名と古典書籍 ―上杉家・伊達家・徳川家の蔵書を中心に―」
東北大学東北アジア研究センター教授　磯部 彰

14：30 「鎌倉幕府高官長井氏について」
神奈川県立歴史博物館専門学芸員　永井 晋

15：30 まとめ「長井ふるさと再発見!」
～15：40

伝 長井時広夫妻坐像（堂森善光寺蔵）

《主催》東北大学東北アジア研究センター　共同研究「典籍文化遺産の研究」・「出版文化資料データベース研究ユニット」
〒980-8576 仙台市青葉区川内41《TEL》022-795-6244《E-mail》eapub@cneas.tohoku.ac.jp《HP》http://eapub.cneas.tohoku.ac.jp/
《後援》長井市教育委員会

“長井市”の歴史がわかる“ふるさと講座”

長井荘の文化と大江長井氏

❖ ふるさと講座の内容紹介 ❖

長井市のある山形県の南側は、古くは古代から中世にかけて長井荘などの荘園があり、近世江戸時代になると、米沢藩上杉氏が領主となりました。上杉氏が米沢に居を置く前は、伊達政宗が出た伊達氏が城館を構え、その伊達氏の前は、鎌倉幕府で重要な役職にあった長井氏が長井荘を支配していました。長井氏は、もともと京都の公家の出であった大江広元から始まります。その子息である大江時広は長井荘を支配し、長井姓を名乗りました。長井（大江）時広以来、長井氏は鎌倉幕府の高官を務め、北条氏の執権政治を補佐するようになりました。その長井氏一門ですが、大江広元は別として、長井時広以後の人々についてはあまり知られてはいないように見えます。そこで、今回、長井氏とゆかりの深い長井市にて、長井氏、上杉氏・伊達氏の文化活動に視点をあてて、長井の歴史の一端について紹介したいと思います。

「戦国大名と古典書籍 ―上杉家・伊達家・徳川家の蔵書を中心に―」

磯部 彰（東北大学東北アジア研究センター・教授）

ここでは、漢籍文化について取り上げます。鎌倉時代の長井の歴史よりは後になりますが、関ヶ原の戦いの後に、上杉氏が置賜に移された頃、上杉景勝の家臣直江兼続が南宋時代に出された『文選』という書籍を使って、その複製本を京都で活字印刷し、徳川家康に恭順した姿勢を示しました。上杉景勝のライバルであった伊達政宗もやはり軍師に従って兵学や学問を習い教養を積む過程で、宋や元明の書籍を集めて家名を上げようとしました。伏見時代、徳川家康を筆頭に戦国大名らは、学問に関心を持ちつつ、中国の古い本や朝鮮の本を家名を上げるために蒐集しました。その背景には、鎌倉幕府の北条氏や長井氏が、中国宋代の本を輸入して政治に生かしたことが手本になったと思われます。

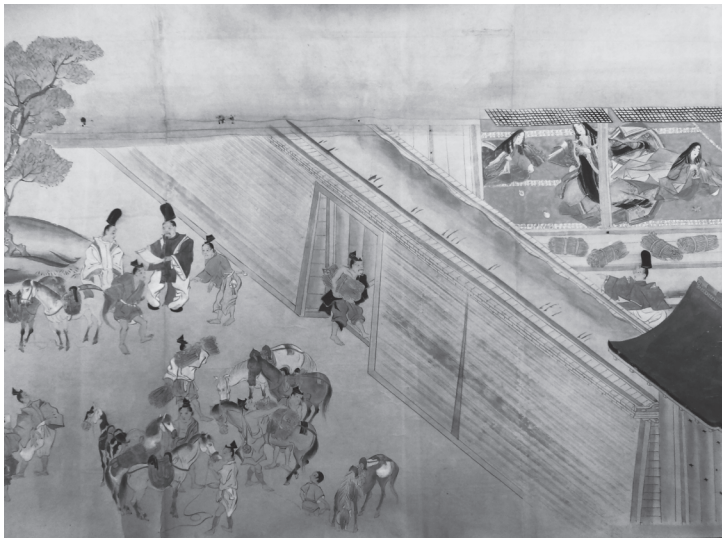
《講師紹介》神奈川県生　東北大学東北アジア研究センター教授　専門は東アジア出版文化。文学博士
主要著書：『《西遊記》形成史の研究』（創文社 1993年）、『東アジア典籍文化研究』（塙書房 2013年）など。

「鎌倉幕府高官長井氏について」

永井 晋（神奈川県立歴史博物館・専門学芸員）

長井氏は、鎌倉幕府の政策決定を行う会議評定に出席する評定衆に名を連ねていました。鎌倉幕府の政策決定にかかわる高級官僚として、幕府の中で重きをなしていました。それと共に、歌人としては勅撰集に撰ばれる勅撰歌人に名を連ね、漢詩文を詠む詩歌会にも参加する文人でした。その才覚は、鎌倉幕府を主導する執権北条氏にも評価され、北条氏の会議に重臣として参列しました。長井氏の教養は、長井宗秀が鎌倉の館に長井洒掃文庫を構えていたこと、宗秀の子貞秀が北条氏一門金沢氏の金沢文庫との間で書物の貸借を行っていたことから確認されます。この講演では、鎌倉幕府の重臣としての長井氏の立場と、鎌倉を代表する文人としての教養を主題としていきます。

《講師紹介》群馬県生　神奈川県立金沢文庫主任学芸員を経て、現在、神奈川県立歴史博物館専門学芸員。専門は日本中世政治史。博士（歴史学）
主要著書：『金沢北条氏の研究』（八木書店 2006年 学位論文）、『北条高時と金沢貞顕』（2009年 山川出版社 日本史リブレット人35）など。



『当麻曼陀羅縁起』（東北大学附属図書館蔵）

《会場案内図》